

船舶事故等調査報告書

平成21年1月8日

運輸安全委員会(海事専門部会)議決

事故等番号	2008横第49号	
事故等名	貨物船第八熱田丸衝突(棧橋)	
発生年月日時刻	平成20年8月29日 08時30分ころ	
発生場所	千葉県千葉港	
事故等調査の経過	調査の概要:平成20年10月22日 横浜・地方事故調査官が海難報告書を精査した 原因関係者からの意見聴取:意見なし	
認定した事実 船種・船名・総トン数 船舶番号(IMO 番号) 船舶所有者等	A 貨物船第八熱田丸 747トン 135862 コスモ海運株式会社・鉄道建設・運輸施設整備支援機構	
乗組員等に関する情報	A 船長 三級海技士(航海)	
負傷者	A 負傷者 なし	
損害状況	A 船首部両舷の塗装はく離、左舷船尾部外板凹損及びハンドレール曲損 棧橋の連絡橋を損傷させた ・ 着岸中の他船 右舷船首コーミング縁部に約4mの擦過傷	
事故等の経過	第八熱田丸は、平成20年8月28日千葉港コスモ石油(株)千葉製油所にて積荷役後、千葉港4区錨地に仮泊した。翌29日07時25分揚荷役のためニチレキ(株)千葉工場棧橋に向けて抜錨して、08時20分頃棧橋手前で、着棧体制とし、船体姿勢を保持しながら進入したが同時30分棧橋の連絡橋に衝突した。その後、対岸の生浜岸壁に着岸中のバルク船にも接触した。 当時の天候は、曇り、南西の風、風力1であった。	
事実を認定した理由	気象・海象の関与 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 判明した事項の解析	あり あり なし 棧橋への進入速度が強かったため、機関全速後進、スラスタ一左一杯、左舷錨3節投入したが、思うように減速しなかったこと 船尾が左に揺れ始めたのは、浜野川の河川流の影響及び機関後進の影響があったこと
原因	本件棧橋衝突は、次のことが関与した可能性があると考えられる。 棧橋への進入速度が強かったため、機関全速後進、スラスタ一左一杯、左舷錨3節投入したが、思うように減速しなかったこと。 船尾が左に揺れ始めたのは、浜野川の河川流の影響及び機関後進の影響があったこと。	